「とっとり評判記」

なんでも

第8話 片原の荒神さん

片原通りにひっそりとたたずむ「片原荒神」

やまびこ博士：今日は鳥取市役所のすぐ近く、片原通りに来てみました。

こだまちゃん：車がたくさん通るわねえ。道で遊んだりするとちょっとこわいかも。

やまびこ博士：むかしは、この通りのすぐ裏に、道に沿って「薬研堀」という堀があった。おおまかにいうと、江戸時代には、この堀を境に、山側が武士の町、旧袋川までの間が町人の町になっていたんだ。

こだまちゃん：今日はその堀のお話？

やまびこ博士：いやいや、その話はまた今度にしよう。今日は、この通りに面してひっそりとたたずんでいる、この小さな神社のことを紹介しようと思うんだ。

こだまちゃん：え？神社？・・・ああ、本当だ！今まで気づかなかったわ。

やまびこ博士：車で通り過ぎるだけだとなかなか気づかないかもしれないね。この神社は「片原荒神」といって、江戸時代からあった神社なんだよ。

こだまちゃん：へえー。

やまびこ博士：この場所は、もともとは壊れた五輪（墓石）の転がる空き地で、子どもたちの遊び場だったんだ。「この神様にお願いすると病気がなおる」という噂が広まって、鳥居や社殿が作られ、だんだんと神社らしくなっていった。そしていつしか、旧暦の9月28日にお祭りが行われるようになった。

こだまちゃん：それはどんなお祭りだったの？

やまびこ博士：江戸時代の後期には、小さな「おみこし」のほか、紙の鎧をきた武者や獅子舞なども出るようになっていたようだ。担ぎ手も含めて、こだまちゃんのような年頃の子どもたちが主役のお祭りだったんだ。

こだまちゃん：大人のお祭りではなかったのね。

やまびこ博士：この神様はとても子ども好きで、いたずらをされても、遊び場になったと喜んだと言われている。

こだまちゃん：わたしたちの守り神だったのね。

やまびこ博士：江戸時代の終わり頃には一旦信仰が衰え、忘れ去られそうになったこともあったようだけれど、その後多くの人々によって守られ、現在もここに残されているんだ。こだまちゃんのひいおじいさん・ひいおばあさんの時代には、「柿投げ荒神・杏投げ荒神」といって、大きなお祭りが行われていたようだ。

こだまちゃん：わたしも、同じ年頃の子とおみこしをかついでみたいなあ。

※主として『鳥府志』の記述によるほか、複数の方からの聞き取り調査成果を利用させていただきました。

＜やまびこ博士から読者のみなさんへ＞

毎回ご愛読ありがとうございます。お手紙をいただいてもなかなかお返事が出せず申し訳ありません。この場を借りてお礼申し上げます。

【佐々木孝文（鳥取市歴史博物館学芸員）】

印刷　株式会社鳥取平版社

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています